

委員会提出議案第 13 号

新型インフルエンザ対策の強化を求める意見書

新型インフルエンザは、これまで多くの感染者が軽症で回復してきた一方で、子どもや基礎疾患を有する者を中心に重症者が増加しており、対策の強化が求められています。

今後、新型インフルエンザの大流行が強く懸念される中、ウイルスの性状変化による病原性の増大や薬剤耐性の獲得が生じた場合などに備えて、これまでの対策について不断の検証を行い、新たな対策を講じていく必要があります。

以上のことから、国においては、新型インフルエンザ対策を強化するため、下記の施策を推進するよう強く要望します。

記

- 1 院内感染対策の徹底により、医療従事者や重症化の恐れのある基礎疾患を有する者などの感染防止対策を強化すること。
- 2 重症者に対する適切な医療提供体制の整備を進めること。
- 3 感染拡大及びウイルスの性状変化を早期に探知するサーベイランス（調査・監視）を実施すること。
- 4 速やかにワクチンが供給できるよう生産体制の充実と公的助成による接種体制の整備を進めること。
- 5 地方自治体、医療機関及び国民に対して迅速かつ的確な情報提供を行うこと。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出します。

平成 21 年 12 月 18 日提出

さいたま市議会保健福祉委員会

委員長 上三信 彰